

平成 29 年度
施 政 方 針



施 政 方 針

未 来 を つ く る 提 案 ・ 行 動

【平成 29 年度の都市経営の基本的考え方】

平成 29 年度の当初予算案並びに関連議案のご審議をお願いするに当たりまして、都市経営の基本的考え方と予算の概要を申し上げ、議員各位並びに市民の皆様のご理解とご賛同を賜りたいと存じます。

◆はじめに

「第 4 次産業革命」は、AI、ビッグデータ、IoT、ロボットなどの技術革新により産業構造、就業構造の大転換を図るため、昨年 6 月、政府が成長戦略の柱に位置付けたものです。15 歳から 64 歳までの生産年齢人口の減少が加速していく中、労働力の確保が難しい業種では新たな担い手として AI やロボットの活用が期待されています。反面、このまま技術革新が進んでいくと 10 年から 20 年後には、国内で働いている人の約半数の仕事が AI やロボットに置き換わるとの予測もあり、ある日突然、自分の仕事がなくなる可能性も秘めています。

近い将来、仕事の内容や働き方が変わるのはもちろん、ライフスタイルも劇的な変革が起ころうとしており、まちづくりや行政サービスのあり方も時代に合った最適化が必要になります。人口急減・超高齢化を克服するためには、大変革の流れを確実に捉え、柔軟に行動することが求められます。

本市の人口は、少子化と大都市圏への人口流出を要因として 2008 年をピークに減少へ転じています。人口ビジョンでは合計特殊出生率を 2035 年までに 2.07 に引き上げ、2020 年までに東京圏との社会移動を均衡させることを目標に掲げました。極めて高いハードルですが、30 年後の揺るぎない理想の未来に向け、乗り越えなければなりません。このため、総合戦略において、雇用の創出、子育て・教育の充実、都市の魅力向上による目標達成の道筋を示し、平成 28 年度事業を実施してまいりました。

◆平成 28 年度の振り返り

雇用の創出では、地域産業力の強化と創業や女性の就業の支援などに取り組みました。

地域産業力の強化に向け、次世代モビリティサービスの実現を目的に「浜松自動運転やらまいかプロジェクト」を企業と連携して開始しました。東京事務所内に首都圏ビジネス情報センターを開設し、積極的な誘致活動を行った結果、新しいビジネスの創出を目指し、東京のベンチャー企業が浜松に拠点を設置することとなりました。市内で活躍するベンチャー企業経営者とは定期的に意見交換会を行い、ネットワークの形成を進めています。また、地元企業を紹介するウェブサイトの拡充や東京において就職説明会を開催するなど、UIJ ターン就職の促進についても、浜松商工会議所などと連携して実施しました。

一方、海外市場にも目を向け、浜松の製品、製品の販路開拓、ビジネス環境を紹介する取り組みとして、ニューヨークで開催された対日投資シンポジウムに参加したほか、台湾の高級スーパーで本市製品のセールスを行うなど、アジア、欧米への積極的なセールスを行いました。天竜材についても、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会関連施設での使用に向けたセールスに加え、ブランド力の強化と流通拡大を図るため、100 を超える企業・団体が参画する「浜松地域 FSC・CLT 利活用推進協議会」設立や「ジャパンホームショー2016」への出展などにより販路拡大に取り組みました。

このほか、ワーク・ライフ・バランスの推進に取り組む事業所の認証を行うとともに、市役所が率先して働きやすい職場として市内事業所のモデルとなるため「イクボス研修」を実施し、環境整備を進めてまいりました。

子育て・教育の充実では、結婚・妊娠・出産・子育てを通じた切れ目のない支援の提供に努めました。

結婚の希望に応えるため、出会いの場の提供を目的として開催した婚活イベントに、多くの方にご参加いただきました。また、家族形成意識を醸成するため、企業

の若手社員などを対象に人生設計を考える講座を実施し、一人ひとりが理想とする家族像の実現に向けた支援を始めました。妊娠・出産についても、不妊治療に係る助成、助産師による相談に加え、市民へのアンケートで要望が多かった産前産後の育児支援などに素早く対応し、安心して出産・子育てができる環境整備を進めました。

教育については、市民総がかりによる教育を進めるため、コミュニティ・スクールをモデル校で実施しました。ICT を活用した教育の推進に向けては、産学官が連携し、タブレット端末による学習応援システムの実証研究に取り組んでいます。また、3校目となる施設一体型の小中一貫校「浜松中部学園」の4月開校に向けた準備や教員の多忙化を解消するため、学校事務センターの設置準備を進めてまいりました。

都市の魅力向上では、本市の持つ魅力の発信とにぎわいの創出を進めました。

井伊直虎関連については、交流人口の継続的な拡大を見据え、井伊谷^{じょうあと}城跡周辺など井伊家ゆかりの地の整備を行うとともに、大河ドラマの放送開始に合わせ、舞台の中心となる北区に「大河ドラマ館」を、観光客の玄関口となる浜松駅前に「浜松出世の館」をオープンしました。大河ドラマ館では、オープンから1か月不足で入場者数が5万人を超えるなど、上々の滑り出しとなっています。

創造都市を推進する取り組みとしては、「世界音楽の祭典 in 浜松 2016」を開催しました。ユネスコ創造都市ネットワーク音楽分野に加盟している都市から多彩なミュージシャンをお招きし、市内外を問わず、多くの人々が地域もジャンルも異なる世界中の音楽に触れる機会となりました。また、浜松国際ピアノコンクールをモデルにした^{おんだりく}恩田陸さんの小説「^{みつばち えんらい}蜜蜂と遠雷」が第156回直木賞を受賞したことで、「音楽の都・浜松」への注目が一層高まっています。

中山間地域のにぎわい創出に向けては、ドローンなどの無人航空機の活用推進による新たな産業の芽を伸ばしていくため「ドローンイノベーション会議」を立ち上げ、測量、物流、空撮の実証実験を行ってまいりました。

◆平成 29 年度に向けて

本市は、輸送用機器産業を中心にものづくりのまちとして発展を続けてきましたが、近年では、光電子技術を活用した産業が成長を遂げ、更なる集積が進んでいます。

第 4 次産業革命の中心的な分野であるロボットや自動運転には、光電子技術の活用が必要不可欠です。既存産業の育成に加え、ベンチャー企業などの誘致、創業の支援に力を注ぎ、アメリカのシリコンバレーになぞらえた「浜松バレー」を実現できれば、本市の産業は今後も持続的発展が可能となります。

農林水産業においても、全国一の FSC 認証林面積を誇る天竜美林に代表される林業は、国内外への販路拡大により再生への道筋が開けます。全国ブランドのみかんを始め、170 以上の出荷品目数を有する農業は、付加価値を向上させていくことで、所得向上につなげていくことができます。

さらに、山、海、湖、川といった四方を囲む多彩な自然には観光やレジャーが楽しめるスポットが数多く存在しています。

このような産業集積、農林水産品、豊かな自然は、すべてが浜松の宝であり先人から引き継いだ貴重な資源です。

また、女性が歴史の表舞台に立つことがほとんどなかった戦国時代に、一族存亡の危機を見事に乗り切った井伊直虎のように、決断力と行動力で難局を突破してきたのが我々浜松市民に脈々と受け継がれる「やらまいか精神」です。

平成 29 年度も総合戦略に掲げる 3 つの基本目標の達成に向けて、どこにも劣らない地域の魅力や資源をオール浜松の知恵を結集して新たな提案に磨き上げ、迅速に取り組んでまいります。

◆若者がチャレンジできるまち

基本目標の 1 つ目は「若者がチャレンジできるまち」です。

「ものづくりのまち」として発展を遂げた本市の強みを活かし、地元の産業力を強化することによって、活力ある魅力的な雇用の場を創出するとともに、あらゆるジャンルの創業や女性の活躍の場づくりなどの支援を充実することで、若者、子育て

て世代の生活基盤の安定を図り、浜松に移り住み、そして住み続けてもらえるまちを目指します。

首都圏のベンチャー企業とのネットワークを強化し、本市に拠点を置く優位性を発信するなど誘致に向けた働きかけの一層の推進に加え、ベンチャーファンドの設立に向け、地域企業や金融機関へのニーズ調査、制度の検討を開始します。また、サテライトオフィスの誘致に向けて、都市機能が集積した市中心部の民間施設、浜名湖の抜群の景観を誇る舞阪協働センターにオフィス環境を用意し、中山間地域へはオーダーメイド型で整備します。そして、誘致した企業と本市の産業技術との融合によって、新産業創出、生産効率の向上、新製品の開発につなげ、ベンチャー企業の聖地、創業の聖地を目指します。

大都市圏から浜松への人の流れをつくり出すため、地元企業の就職説明会を拡充していくとともに、大学内での説明会、転職者向けの面接会を実施し、若者を中心としたチャレンジ・再チャレンジを支援します。

食と農水産品のブランド化のため、産業観光、音楽、伝統文化などの多様な地域資源と組み合わせ、販路開拓や国内外の観光誘客につなげる「食と農の景勝地事業」に取り組むとともに、天竜材については、アジア地域への輸出や全国流通を目的とした家具製品の開発に取り組むなど、販路の拡大、開拓を図ります。

また、ワーク・ライフ・バランスの推進などの働き方改革を通じ、あらゆる人が活躍できる環境の実現に向けて「女性サミット」を開催し、女性の活躍について考え、官民一体で仕事と生活の調和を図る行動につなげてまいります。

◆子育て世代を全力で応援するまち

基本目標の2つ目は「子育て世代を全力で応援するまち」です。

結婚・妊娠・出産・子育てを通じた切れ目のない支援を提供し、子育て世代を全力で応援することで人口減少に歯止めを掛けるとともに、本市の将来を担う個性豊かで才能あふれる人財を育成します。

若い世代の結婚の希望をかなえるため、独身の子を持つ親向けのセミナーの実施など婚活イベントを拡充し、未婚化・晩婚化の対策を進めます。待機児童ゼロに向

けては、認定こども園や認可保育所の新設、学校敷地内への放課後児童会の施設整備などにより定員を拡大します。

教育については、地域の未来を担う人財が進学などにより一時的に浜松を離れても、卒業後戻って来たくなるよう、地域の魅力を伝えてまいります。昨年、市立高校の1・2年生を対象に私が市政に関する講演を行ったところ、9割以上の生徒から浜松に対する関心が高まったとの回答がありました。このような取り組みを他の高校も含め積極的に行うとともに、小中学生に対しては、実体験を通じて地域の良さを知り郷土愛を醸成する活動や、起業家教育によってやらまいか精神を醸成する活動を展開します。また、昨年12月に開催した総合教育会議での文部科学大臣補佐官を交えた議論を踏まえ、コミュニティ・スクールのモデル校を拡充します。

子どもたちが持つ無限の可能性を伸ばす特別課外講座については、産学官連携で小学生に実施しているITキッズプロジェクトの対象を中学生まで拡大し、第2・第3のノーベル賞受賞者の育成に向けてカリキュラムを高度化してまいります。

◆持続可能で創造性あふれるまち

基本目標の3つ目は「持続可能で創造性あふれるまち」です。

本市の持つ魅力を余すところなく発信・活用するとともに、人口減少時代を乗り越えるまちづくり、日常の豊かさを実感できるまちづくりを進めることで、市内外の人を引き寄せる都市を目指します。

今年は直虎イヤーです。市内の至るところに「井伊の赤備え」を表す赤いのぼり旗が立ち並び、地元企業の電車やトラックには「出世法師直虎ちゃん」のラッピングが施されています。観光シーズンを迎える3月には、舘山寺から気賀までの船便も就航予定であり、官民一体となったおもてなしの準備が整ってまいりました。井伊家ゆかりの地と連携したサミットや企業との共催イベントの開催によって一層の盛り上げを図る一方で、湖北五山や本市の食などの魅力の発信や、ICTを活用して遊休資産の共同利用を推進するシェアリングエコノミーの仕組みを取り入れた体験型観光の促進により、浜松のファンを増やし、交流人口の拡大が継続するよう取り組みを進めます。

移住希望者への支援については、田舎暮らしだけでなく、すべての移住・定住相談にワンストップで対応する「浜松市移住相談センター」を開設します。東京のふるさと回帰支援センターと連携した相談会を実施するほか、昨年配置した中山間地域移住コーディネーターとも連携し、移住を希望する一人ひとりの要望や不安にきめ細かく対応します。

区制度の検討については、これまでに工程表を策定し、政令指定都市移行後 10 年間の検証・総括を行いました。平成 29 年度には人口減少下における持続可能な行政区、行政サービスの提供体制の案を市民の皆様にお示しし、広くご意見を伺います。工程表に基づき、平成 30 年度末を目途に行政区再編や、新たなサービスの提供体制を決定してまいります。

【平成 29 年度予算編成方針】

次に、平成 29 年度の予算編成でございます。

平成 29 年度は、地方創生に対する取り組みの定着、深化、更なる発展を積極的に推進するものとししました。具体的には、3 つの基本目標の達成に向けた施策に重点を置いた編成です。

持続可能な財政運営に向け、徹底した歳入確保、選択と集中による限られた財源の有効活用により、真に必要な施策、直面する行政課題の解決に重点化した上で、中期財政計画に基づいてプライマリーバランスを堅持した結果、予算規模は県費負担教職員制度の権限移譲の影響もあり、一般・特別・企業会計の総額で前年度に比べ 7%、409 億円増の 6,267 億円となります。

【平成 29 年度分野ごとの重点施策と主な事業】

こうした予算編成方針を踏まえ、浜松市未来ビジョン第 1 次推進プランに定めた 7 つの分野に基づき、平成 29 年度に実施する重点施策について申し上げます。

1：産業経済

1 つ目は、「産業経済」です。

持続可能な地域経済の確立に向け、産学官金が連携し、ものづくり産業の高度化、輸送用機器関連産業に次ぐ新たなリーディング産業の育成を図るとともに、地域の魅力向上、農林水産業における多様な担い手の創出と多彩な農林水産品の高付加価値化に取り組みます。

新技術・新製品の事業化を目指す中小企業などに対して、プログラミング習得の支援や関係機関との連携により、IT人材の確保を促進します。本市の強みである光電子技術を活用した産業の成長を後押しするため、フォトンバレーセンターを設立し、大学と企業のマッチング、試作品開発の助成などにより、技術開発や事業化を支援します。

アジアを中心とした海外の活力を本市の産業に取り込むビジネス展開の支援としては、農林水産物や加工食品の販路拡大に向けて、香港で開催される「フードエキスポ 2017」へ本市ブースを初出展するほか、三遠南信地域の広域連携を進めている長野県飯田市や愛知県豊橋市とともに、タイやマレーシアのバイヤーを招へいします。高機能・高付加価値なものづくりを展開する企業について、欧米の大規模な見本市への参加を支援し、国際的な地位を高めるとともに、地域雇用の拡大を図ります。また、中国杭州市の西湖と台湾の日月潭との関係を軸とした湖サミットの開催により、浜名湖の魅力発信、地域の活性化に取り組んでまいります。

2：子育て・教育

2つ目は、「子育て・教育」です。

地域社会のサポートにより仕事と子育てを両立し、生きる力を身に付けた子どもたちが育つ環境づくりを推進します。

子育て支援では、病気療養中や回復期の子どもの保育を可能とする施設を増設し、仕事と子育ての両立を支援します。子どもの貧困対策では、経済的に困窮する家庭の早期発見・支援のため、貧困対策コーディネーターを配置し、相談体制のネットワークを構築するとともに、昨年実施した調査で要望の多かった学習支援を拡充します。

学校教育では、市民総がかりによる教育を推進するため、学校と地域との連携を

強化する体制を整えます。放課後児童会では、大学生のボランティアなどが運営に関わることにより、多様な遊びや学びができる異世代交流の充実に取り組みます。また、教育相談窓口を一元化し、発達などの問題を抱え、支援が必要な子どもの様々な課題に対応する体制を整備してまいります。

3：安全・安心・快適

3 つ目は、「安全・安心・快適」です。

市民一人ひとりが、災害、犯罪、事故などの危険から自分の命と財産を自ら守る意識を高めるとともに、居住エリアへの誘導などによりコンパクトなまちづくりを進めます。

地域防災の中核を担う消防団の機能を強化するため、専門的な知識と技術を備えた消防団員を育成する教育体制を構築するほか、活動に必要な救助救急用資機材を配備します。また、近年、浸水被害が続いている高塚川流域においては、雨水貯留施設を整備し、河川への雨水流出を一時的に抑制するなど、浸水リスクの軽減を図ります。

交通事故ワースト1 脱出に向けては、ビッグデータから得られる速度超過や急ブレーキの多発する危険箇所に対し、路面表示の設置や交差点カラー化など、事故を未然に防ぐ即効性の高い対策を実施します。

拠点ネットワーク型都市構造の実現に向けた取り組みとしては、人口減少時代を見据えた具体的な居住誘導区域を設定します。玄関口である浜松駅については、南口周辺の道路改良により、交通混雑の解消と歩行者の安全確保を進めます。

浜松城公園では、南エントランスゾーンの本丸南石垣の保全などにより、来園者の安全を確保するとともに、歴史をより身近に感じられるよう、魅力の向上を図ってまいります。

4：環境・エネルギー

4 つ目は、「環境・エネルギー」です。

地域特性を活かした再生可能エネルギーの導入を一層拡大するとともに、住宅・

工場・事業所におけるエネルギーの最適利用を促進し、電力自給率を高めます。また、3Rを推進し、ごみの減量化を図るとともに、温暖化対策、豊かな自然環境の保全に取り組み、持続可能なまちづくりを進めます。

浜松版スマートシティの実現に向け、スマートコミュニティ事業の経済性評価を検証するとともに、木質バイオマス資源を活用した発電事業の導入可能性を調査し、基礎データを収集します。また、学校などの発電設備や蓄電池をネットワークにより統合管理し、需給バランスを調整するバーチャルパワープラントを民間事業者との連携により構築します。

天竜区に整備する新清掃工場及び破砕処理センターについては、平成36年度の稼働に向けて、PFI手法により整備・運営を行う事業者を募集し、決定してまいります。

5：健康・福祉

5つ目は、「健康・福祉」です。

地域における支え合いの仕組みづくりを進めるとともに、病気の発症や重症化を予防することにより健康寿命の更なる延伸を目指します。

健康に関心が低い青年期・壮年期に対しては、関係機関と連携し専門職による事業所訪問を行うほか、35歳の市民を対象にスマートフォンを活用した健康チェックの提供など、生活習慣病予防に取り組みます。

介護予防・重度化予防としては、ロコモーショントレーニングの普及拡大やささえあいポイント事業の充実などに重点的に取り組みます。また、地域のボランティアなど多様な主体が生活支援サービスに参画する仕組みをスタートし、介護サービス利用者の選択の幅を広げ、効果的・効率的な支援を行います。

地域福祉力の向上のため、コミュニティソーシャルワーカーを増員し、地区社会福祉協議会の活動支援や様々な機関と連携した包括支援により、多様かつ複雑な福祉課題の解決につなげます。昨年、県内で初めて導入したオレンジシールの交付やオレンジメールの配信による認知症徘徊高齢者の早期発見など、本人や家族の支援を推進し、認知症になっても住み慣れた地域で安心して暮らせる環境を整えます。

障がいのある方の社会参加の促進に向けて、屋外での移動が困難な方の外出支援の対象をグループホーム利用者へ拡大するとともに、文化・スポーツ施設での介助者の使用料について統一基準により減免します。また、重度の発達障がいのある子どもを対象として、医療と連携した集団療育施設を整備し、子どもの障害特性の緩和や生活障害の軽減などに取り組んでまいります。

6：文化・生涯学習

6つ目は、「文化・生涯学習」です。

音楽を始めとした様々な分野で新たな文化や産業の創造を目指すとともに、多様な歴史・文化による豊かさやスポーツによる生活の充実などを実感できる環境づくりを進めます。

創造都市の推進では、音の持つ可能性を追求する「サウンドデザインフェスティバル」を開催するとともに、昨年訪問したドイツ・ハノーバー市との音楽文化交流の第1弾として、ハノーバー北ドイツ放送フィルハーモニー管弦楽団の指導者を招へいし、弦楽器を中心にジュニアオーケストラの演奏技術向上を図ります。また、幅広い文化的活動を高い専門性によって支援する組織として、浜松版アーツカウンシルを立ち上げます。

はまホールの後継施設については、ホールに加え、文化創造の拠点にふさわしい施設とするため、ニーズ調査の結果を踏まえ、基本構想をまとめます。

スポーツの振興については、ラグビーワールドカップ2019の関連イベントの実施、東京オリンピック・パラリンピックにおけるブラジル選手団の事前合宿誘致など、スポーツを通じて本市の魅力を世界へ発信します。また、遠州灘海浜公園への県営野球場の建設や、四ツ池公園陸上競技場の整備について継続して協議を進めてまいります。

7：地方自治・都市経営

7つ目は、「地方自治・都市経営」です。

協働に関わる多様な主体の連携を促し、質の高い市民サービスを提供するととも

に、「民間でできることは民間で」を基本に公共施設の整備や維持管理への民間活力の導入を進めます。

市民協働によるまちづくりを推進するため、龍山森林文化会館の施設利用の受け付けや生涯学習講座の企画、実施などの管理運営業務を地域に密着した NPO 法人に委託し、地域コミュニティ活動の活性化を促進します。また、ボランティアを行う大学生のための拠点を市民協働センターに開設します。拠点の運営を学生に任せ、情報交換や情報発信の促進、企業とのマッチング支援などにより、ボランティア活動の活発化を図ります。

多文化共生の推進については、文化的多様性を強みとする都市で構成するインターカルチュラル・シティ・ネットワークにアジアで初めての参加を目指し、世界の多文化共生都市との連携により、海外諸都市との協力関係の構築、知見やノウハウの共有を進めます。就学前の子どものいる定住外国人世帯に対しては、学びの場を確保し、安定した就学につなげるための状況把握や情報提供などに取り組みます。

西遠流域下水道の静岡県からの移管に伴う官民連携手法としては、民間のノウハウを最大限発揮できるコンセッション方式の平成 30 年度からの導入に向けた準備を進めます。また、上水道についても導入可能性の調査に着手し、全国初となる上下水道でのコンセッション方式導入を目指します。

行政経営諮問会議の基本的な機能を継承した「都市経営諮問会議」を設置し、引き続き、第三者機関を活用した、持続可能な都市経営と継続的な行財政改革を推進してまいります。

【おわりに】

過去に災害などで一時的に人口が減少することはありましたが、急激かつ継続的に人口減少・高齢化が進むことは、私たちにとって初めての経験となります。一方、近い将来、第 4 次産業革命などの技術革新が人々の仕事内容やライフスタイルを大きく変えることが予測されます。従来成功例が必ずしも正解とはならない、前例が通用しない社会が到来しています。

総合計画では、時代の変化にも対応できる 30 年後の理想の未来を示しましたが、

大事なことは、計画を確実に実行していくことです。

井伊の赤備えは、甲斐の武田家に由来しているとも伝えられています。

赤備えの精鋭部隊を率いた武田信玄は「為せば成る、為さねば成らぬ。成る業^{わざ}を成らぬと捨つる人のはかなさ」という句を残しています。これは、強い意志を持って取り組むことにより何事も実現できるにも関わらず、最初から無理だと諦めてしまうところに人の弱さがあるという意味です。

我々に求められているのは、「できない」理由を並べて諦めることではなく、「できる」に変えていくための提案であり、実行力です。

法律や規則が立ちはだかることもしばしばあります。しかし、現実に法令が追い付いていないのであれば、規制のために「できない」と諦めるのではなく、「できる」ように規制改革を働きかける行動力が必要です。私とその先頭に立って行動します。

私たちが植えた新しい芽は確実に育ちつつあります。この芽を果実が収穫できる大樹に育てあげるため、地域の資源を最大限活用しながら、オール浜松で粘り強く行動してまいります。

以上、平成 29 年度の施政方針を申し上げます。議会におかれましては、十分にご審議いただき、予算案並びに関連する議案につきまして、ご議決賜りますようよろしくお願い申し上げます。

平成 29 年 2 月 27 日

浜松市長 鈴木 康 友



浜松市

やらまいかスピリッツ!
創造都市・浜松